

令和 3 年 5 月 15 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02406

研究課題名(和文) 地方実録の生成に関する研究

研究課題名(英文) Research on generation of 'jitsuroku' written in local districts

研究代表者

田中 則雄(Tanaka, Norio)

島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授

研究者番号：00252891

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：近世の実録(実事件と人物に基づくことを標榜する実録体小説)には、全国規模で流布したものが多数存在する。その一方で、当の事件の起こった地で作られ伝存した 地方実録 がある。地方実録は、最初は虚構化を抑制し、事件直後当地で語られた実説に沿って生成していく。そして後に改めて事件人物が解釈し直され、その解釈に基づいて本文が増補改変されるという展開を見せる。姫路騒動実録は、このような生成と展開の様相の認められる典型例である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世における実録(実録体小説)には、全国規模で流布したもののほか、当の事件の起こった地で作られ伝存した 地方実録 がある。地方にも、実録の制作方法を習得した作者たちが存在したのである。この度の調査研究の結果、このような地方実録は、最初は虚構化を抑制し、事件直後当地で語られた実説に沿って生成していくこと、そして後に事件人物が改めて解釈し直され、その解釈に基づいて本文が増補改変されるという展開を見せることが明らかになった。本研究は、歴史学はもとより、地方における文献の発掘、文化の継承に関する考察という点において、地域史研究とも関連を有するものである。

研究成果の概要(英文)：In the early-modern times (the Edo Period), many kinds of 'jitsuroku' (novels based on factual incidents and people) were distributed throughout Japan. On the other hand, some works were written in local districts, and still remain in existence there. This kind of 'jitsuroku' is generated on the basis of the true story told there in the initial stage, however, revised according to new or different interpretation. In 'jitsuroku' of feud in the Himeji Domain, we can find a typical case of such generation and evolution.

研究分野：日本文学

キーワード：地方実録 実録 近世小説 日本近世文学 読本

1. 研究開始当初の背景

中村幸彦による実録研究の遅れの指摘、研究の提唱(「実録体小説研究の提唱」1968年)以来、実録研究の方法が次第に確立され、具体的な作品研究が進展し、『実録研究』(高橋圭一、2002年)、『近世実録の研究』(菊池庸介、2008年)などの専著が出るに至った。

かかる従来の研究においては、伊賀越敵討物、伊達騒動物など全国規模で流布した実録が主として扱われてきた。研究代表者田中は、これらの研究を踏まえつつ、一方で、その事件の起こった地元で作られ伝存した実録(以下、地方実録)があることに着目し、山陰地方(島根・鳥取)を中心に作品を発掘してきた(著書『雲陽秘事記と松江藩の人々』など)。

かくてこれらの調査研究の中で、地方実録と、当該事件に関わる史料(歴史文書等)とを対比し、实在事件を元に実録が作られる、生成のあり方を解明しようと試み、結果、次の(1)(2)の見通しを得た。

- (1) 事件直後地元で、事件に関する見聞が残存する中であって、事件の実説の枠組を守りながら全体の話の構成がなされる(初期段階の地方実録では、大幅な虚構化は起こりにくい)。
- (2) ただし初期段階においても、細部(人物の言動、事件の背後にある事情など)に関する記述が増補されることにより、実録の形態を成すということは起こっている。

2. 研究の目的

近世の実録には、全国規模で流布したものがあ一方、その事件の起こった地元で作られ伝存した地方実録がある。地方にも、実録の作法に通じた書き手が存在したのである。

当該事件について記録した史料(歴史文書等)と対比することにより、地方実録は、事件の実説の枠組を守りつつ(大幅な虚構化はせず)、一方で細部の描写・説明を増補することで生成する、との推定が得られる。本研究ではこのことを具体的に検証する。なお、地方実録生成のこのようなあり方が、実録という小説ジャンル全般の特質に、本質において連続するものであることを考慮しつつ論ずる。

3. 研究の方法

1に掲げた(1)(2)の見通しに立脚し、地方実録の調査対象を拡大しつつ、事件の実説から実録が生成していく過程を、より精緻に解明する。

・(1)に関して

事件直後、地元では、事件に関する見聞や風説が存し、それらが文書等に記録されて残っている場合がある。これらの内容と初期段階の実録の記述とを比較することにより、事件を元にして実録が生成される様相を解明することができる。

・(2)に関して

単に事件の経緯のみを記したのでは実録の形態とはならないのであり、初期段階といえども、人物の言動、事件の背後にある事情などの記述が増補されていると考え得る。このことを、文書等に残る記述と比較することにより明らかにする。

なお、元来実録という小説ジャンルは、

・事件がそのように展開する必然性を示すことによって、話の「筋を通す」。

・書写による継承を経ながら次第に話が付加されていく(“生長”する)。

という性質を有している。特にかかる観点に沿って、地方実録に存する特質を検証していく。

4. 研究成果

本研究によって得られた主な成果は下記の通りである。

(1) 実録「伯州米子の城下敵討の事」(東京都立中央図書館蔵写本『報仇記談』所収)に関する考察により次の点を解明した。

この実録は、近世初期(1600-1609)のみに存在した伯耆国米子藩中村氏に関するもので、同氏の歴史を根底に置いている。なお、後半部分は、中村氏断絶の過程で非業の死を遂げた甘利三郎左衛門なる忠義の臣を設定し、その子三郎四郎が艱難の末に敵討を成就するとしており、敵討実録の定型に沿って作られた仮構性の強い内容である。

本作に関して重要であるのは、藩主中村忠一が徳川家康・秀忠から厚遇されていたこと、若年の忠一が米子へ入封するが僅か9年で終わったこと、忠一の最期が頓死であったこと、断絶後の財産管理に問題のあったことなどの史実を踏まえながら、忠一の滅亡・中村家断絶の具体的経緯に関して仮構をも設けつつ、実録の形態に作り上げたという点である。作者は、米子藩中村氏の時代とはいかなるものであったのかを独自に捉えた上で、一つの別伝として読まれることを意図して本作を執筆したものと推定する。

(2)姫路騒動実録に関して下記の点を解明した。

寛延4年(1751)7月、姫路藩酒井家の家老川合勘解由左衛門が、2人の家老を討ち果たして自害した事件に関する実録が伝存するが、従来その諸伝本の関係については未整理であった。この度の調査により、事件直後に原初的な形態の実録が作られ、そこから『姫陽陰語』として3つの系統に分かれ、更にそのそれぞれに対して増補が行われたと推定し得ることを示した。また、その増補は、川合と2人の家老との対立の構図をより明確化し、事件発生の要因についてより合理的に説明するという見地からなされていることを明らかにした。

また同じ事件を素材とする『忠臣川合実記』なる実録の存在を指摘し、前掲『姫陽陰語』とは異なる独自の性質を持つものであることを明らかにした。当実録には、姫路の地名・伝承、寛延元年(1748)の大一揆などの記述が見られ、地元で作られたものと認める。かつその文章は、『姫陽陰語』に直接依拠せず独自に書かれたものである。そしてそこには、川合と2人の家老との対立の背景には、当時の姫路藩における領民統治のあり方に関わる問題(双方の思想の対立)が関与していたとする独自の観点が提示されている。即ちそこには、一種の社会的観点から事件を捉え直し、それを人物の言動を通して描き上げるという方法が認められるのであり、このことは実録のあり方の一例として重要なものであると考えられる。

また事件直後における情報の拡がり、巷説の発生、そこから実録が生成する経緯についても資料によって跡付けた。以上により、姫路騒動実録に即して、地方において実録が生成し展開していくあり方を解明した。

(3)近世出雲国に関する実録『雲州橘之巻』『宝武実情記』を翻刻し、それぞれの特質について論述した。

特に『宝武実情記』は従来存在の知られていなかった実録である。この度の調査により、下記の点を明らかにした。松江藩士による敵討事件を記すもので、伝本は、翻刻の底本とした国文学研究資料館本のほか、新潟県胎内市黒川地区公民館本を知るのみである。宝暦12年(1762)5月、村本左仲太が早川源蔵に討たれ、その弟左源次が敵討を志し、美作国勝山で源蔵を見出すも、卑劣な手段で返り討ちに遭う。横死した兄弟の父村本九右衛門の友人瀬村覚右衛門は、既に亡き左源次を敢えて養子とし九右衛門から貰い受けたとした上で、敵の行方を求めて諸国を廻り、終に石州津和野で源蔵を見出し、決闘の末討ち取るという話である。敵の人物が、出奔の後他国で剣術師範として仕官し、それを見出して周囲の協力のもと討ち取るとなっているのは、敵討実録に頻出する型であり、全般にわたって仮構性が強い。しかしながら、地元の地名の用い方などには実態に沿った部分が認められ、地元人かそれに近い関係者が成立に関与している可能性があると認める。

著書『読本論考』(2019年6月、汲古書院)を刊行し、「第4部 読本と実録」において、地方実録に関する論文(下記)を収録した。

第三章 浜田藩江戸屋敷女敵討の実録と読本

第四章 松江藩と実録

第五章 出雲国仁多郡木地谷敵討の実録

第六章 地方における実録の生成 因幡・石見の事例に即して

新たな課題の把握

特に(2)に掲げた姫路騒動実録の調査研究の結果、地方実録の作者が、事件の実説の枠組を守りつつも細部の増補を行おうとするとき、その増補は決して無作為的ではなく、作者の当該事件人物への解釈・評価に沿ってなされているという推定を得た。特に、事件後年月を経ると、実説の枠組から次第に開放されて、事件人物の捉え直しがなされる傾向が強くなるものと考えられ、そうした中で、同事件に依拠しつつも新規の実録が作られることも起こる。生成、更には展開へと至る様相を総合的に考究することが次なる課題であることを把握した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 113
2. 論文標題 姫路騒動実録の生成と展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近世文藝	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 13
2. 論文標題 松江藩士に関する実録『宝武実情記』（下）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 12
2. 論文標題 松江藩士に関する実録『宝武実情記』（上）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 37 -49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24568/49649	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 7
2. 論文標題 文化期大坂の作者五島清道の読本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 78-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 36
2. 論文標題 鳥取県琴浦町河本家所蔵実録本『北野聖廟靈驗記』について(一)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 島大国文	6. 最初と最後の頁 17-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 10
2. 論文標題 『雲州橋之巻』について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24568/40959	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 9
2. 論文標題 実録「伯州米子の城下敵討の事」について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24568/38657	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 田中則雄
2. 発表標題 姫路騒動実録の生成と展開
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 田中 則雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 542
3. 書名 読本論考	

1. 著者名 山本秀樹、田中則雄、高橋圭一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 393 (担当 : 65-128, 163-237, 362-369, 377-384)
3. 書名 頼原文庫選集第6巻 談義本・読本・軍書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------